

石川県立中島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 基本的な生活習慣を確立し、人間としての正しい在り方や生き方を実現する。	登校時の指導をより徹底するなど、遅刻指導を強化する。	総務課 生徒指導 学年会	始業に遅刻する生徒がかなりおり、集会時の集いに時間がかかるなど、時間を守る観念に乏しい状況が見られ、授業時の緊張感保持や集会時の集団行動意識の確立に影響が出ている。	【成果指標】(内部・生徒) 登校時・授業時・集会時等に遅刻をする生徒がない。	A・生徒全員が、始業・集合時間におくられることなく準備が整っている。 B・準備は整っていないが、ほとんどの生徒が始業・集合時間に遅れず時間を守っている。 C・始業時間等に遅れる生徒が少しいるため、開始時間が遅れることもある。 D・始業・集合時間に遅れる生徒が多く、なかなか態勢が整わない。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	全ての教員が同じ基準により服装容儀指導を行う。 また、生徒に対しては指導の意義を理解させる努力をする。		一部の生徒で、意識的にだらしない服装をし、恣意的な行動で、自己を顕示しようとする傾向が見られる。	【成果指標】 (内部・生徒・保護者) 生徒の服装・態度・姿勢が整っている。	A・平素より、全体的にきちんとした身なり・態度が見られ、生徒たちは、その姿勢が身に付いている。 B・注意は必要とするものの、ほとんどの生徒の服装・容儀が正されている。 C・服装の乱れがやや目につき、指導の徹底が十分でない。 D・服装の乱れや態度が悪く、常に注意が必要である。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	「授業時における生活指導」を徹底させるとともに「わかる授業」により精力的に取り組む。		授業に集中できない生徒の中で、授業中の私語やいねむりなどが見られ、意欲的に学習に取り組めない状況が見られることがある。	【成果指標】(内部・生徒) 遅刻・立ち歩き・私語がなく、授業に集中できる環境となっている。	A・生徒全員が始業に遅れることなく着席し、私語もなく落ち着いた学習環境が保たれている。 B・授業導入時は、遅刻や忘れ物をする生徒で開始は遅れるが、ほとんどの生徒は真面目に授業に取り組んでいる。 C・遅刻・立ち歩き・私語の注意が多く授業に十分集中できない。 D・遅刻・立ち歩き・私語をやめない、不必要な物を片づけられないなど、授業に臨む態勢が全く整わない。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	清掃活動の徹底を図る。 掃除の時間の意義を生徒に理解させるとともに、掃除時には教職員も可能な限り生徒を見守るようにする。	保健指導課 学年会	美化意識が年々低下しており、清掃当番箇所の清掃を丁寧に行わない生徒が一部見られる。	【成果指標】(内部・生徒) 生徒が毎日の当番清掃にしっかり取り組んでいる。	A・当番清掃にしっかり取り組み、美化意識が向上している。 B・多くの生徒が当番清掃に取り組み美化意識が向上している。 C・当番清掃に取り組めたが、自主性に欠ける。 D・清掃に取り組まない生徒が目立ち、美化意識が欠如した状態である。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	生徒一人ひとりをよく観察し問題行動発生の防止策をできるだけ早めに講じ実践する。	生徒指導 教育相談 学年会	同じ生徒が問題行動を繰り返すという傾向があり、再犯に至らないための対策が必要である。	【努力指標】(内部) 問題行動の発生を減らし、再発をさせないようにしている。	A・積極的に問題行動の発生防止策を実践し、撲滅に努め、再発防止の継続指導を行った。 B・学年団等の協力体制に賛同し、未然防止策の実践に努力した。 C・時間に余裕のある時の協力にとどまり、積極的な実践に努めることはなかった。 D・問題行動の未然防止策の実践に努力したとは言えない。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 基本的な学習習慣を身につけることで学習に対する意欲を高め、基礎基本の習得とともに発展的な学力も養う。	個々の生徒のレベルに対応したより適切な授業を行い、習熟度別少人数学習のメリットを生かすさらなる工夫をする。	教 務 科 教 科	個々に適した学習を行い、設定した到達目標の実現や達成感を持たせる努力をしているがまだ不十分である。	【成果・満足度指標】(内部・生徒) 数学や英語の習熟度別授業は、数学を理解するのに役立っている。また生徒もそう感じている。	A・より理解できた。 B・まあまあ理解できた。 C・少し理解できない点が残った。 D・あまり理解できなかった。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	指導法の改善や教材の開発を進め、授業公開・研究授業・研究協議を充実する。	教 務 科 教 科	教員の日々の努力が生徒の向上につながる。教員のたゆまぬ研鑽がさらに必要である。	【努力指標】(内部) 学習指導計画を工夫し、授業研究を計画的に実施する。	A・50%以上の教員が実施している。 B・40%以上の教員が実施している。 C・30%以上の教員が実施している。 D・実施は30%以下であった。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
		教える側の熱意が、生徒の学習意欲を刺激するので熱意が生徒に伝わるようにする工夫も必要である。	【満足度指標】(生徒) 「先生は、生徒たちの学習意欲を一層高めようと努力している。」という思いを生徒が持っている。	A・ほとんどの先生が努力している。 B・努力しているのは半数ほどである。 C・少しの先生しか努力していない。 D・努力している先生はあまりいない。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。		
	放課後・長期休業中を活用して特別学習指導を実施する。	生徒の学習成果の伸長の度合いは、生徒個々によってまちまちである。遅れた生徒への対応をより丁寧に行う必要がある。	【満足度指標】(生徒) 生徒が「学習の遅れた所は、特別に指導してもらえるので不安はない。」と思っている。	A・学習が遅れても不安はない。 B・学習が遅れても不安はないと思うことが多い。 C・学習が遅れると少し不安になる。 D・学習が遅れると不安だ。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。		
		生徒の実態に合わせた分かる授業を展開しているが、生徒の授業に対する満足度は必ずしも高くない。	【満足度指標】(生徒) 生徒が「どの授業も、わかりやすく理解できる。」と感じている。	A・多くの先生の授業は分かりやすく充実している。 B・分かりやすい授業をする先生は、半数以上いる。 C・分かりやすい授業をする先生は、半数に満たない。 D・分かりやすい授業が少ない。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。		
	適切な家庭学習課題を与えるなどして家庭学習の定着を図る。	教 務 科 学 年 会 教 科	予習・復習が不十分であり、学ぶ姿勢が前向きに保たれていない。学習習慣を身につけさせるために、家庭での課題学習が大切である。	【成果指標】(内部・生徒) 課題の提出等がなされ、家庭学習も定着する。	A・家庭学習が1時間以上なされ、課題提出も8割以上に達成した。 B・8割以上の生徒において家庭学習が定着し、課題提出もおおむねなされた。 C・過半数の生徒において家庭学習が定着し、課題もおおむね提出されている。 D・ほとんどの生徒が家庭学習をしておらず、課題も提出しない。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
	図書館報の内容を工夫して読書意欲を刺激し、図書室の利用の増大を図る。また、国語教科の授業を通して読書意欲を涵養する。	教科 図書館指導員	読書に親しむことで、いろいろな価値観に触れ、思考力や表現力、そして思いやりの心を培う必要がある。	【成果指標】(内部) 利用者数、貸し出し数が増加し、読書に親しむ生徒が増加する。	A・80%以上の生徒が図書館を利用し、読書活動が活発である。 B・50%以上の生徒が図書を借りた。 C・図書を借りる生徒は50%以下だ。 D・図書を借りる生徒は少ない。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
3 進路に対する意識を高め、進路実現に向けた学習や体験活動を行い、社会性や自立心を育てる。	学ぶことの重要性を理解させる指導を通して、学ぶ意欲を高め、進路意識を啓発する。	教 務 進 路 学 年 会	「学ぶこと」と「働くこと」は、生涯にわたって行われることである。生涯を生き抜くための、将来への指針を自ら見つけ出させる指導を心がけているがまだ不十分である。	【努力指標】(内部) 具体的目標の提示によって学習意欲を高め、進路実現に向けて努力する態度を育てている。	A・成績の向上、資格の取得など具体的目標の提示、助言によって全体の学習意欲と進路意識が高まった。 B・具体的目標の提示、助言によって学習や進路に対する意欲を持って取り組む生徒が少しずつ出てきた。 C・目標を持ったものの、努力する様子に甘さが見られ、意識の喚起までには到達していない。 D・目標を持たせる指導が十分でなく、意欲の増大が図れなかった。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	生徒・保護者への進路情報の提供及び体験学習の充実を図る。		情報過多の時代であるがために、伝える情報の取捨選択が大切である。また、職場体験を通して自己の進路を考えさせる指導も必須の条件となってきた。	【努力・成果指標】(内部・生徒・保護者) 全学年で、生徒・保護者個々の必要とする進路情報を提供している。また、職場体験によって適切な進路選択が行われている。	A・生徒・保護者が必要とする進学・就職情報が十分に提供され、職場体験も進路選択に有効に生かされた。 B・生徒・保護者が必要とする進学・就職情報はある程度提供され、職場体験も進路選択にある程度生かされた。 C・生徒・保護者向けの進学・就職情報が十分に提供されず、職場体験も進路選択にあまり有効ではなかった。 D・生徒・保護者が必要とする進学・就職情報がほとんど提供させず、職場体験はまったく意味がなかった。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	キャリア教育をより充実させ進路希望を早期に明確にさせる。		進路を決定するためには、そのための準備として、情報の収集・実地見学・決定に向けた学習活動などが欠かせない。それ故、これらの活動にこれまで以上に早くから取り組むことが必要である。	【成果指標】(内部・生徒・保護者) 進路希望を明確にして、実現に向けての努力する姿勢が見られる。	A・ほとんどの生徒が進路希望を明確にし、その実現に向けての努力をし始め、学習態度・生活態度が良くなった。 B・多くの生徒が進路希望を明確にしたものの、実現に向けての努力にまだ甘さが見られる。 C・全体的に進路希望を明確にして行こうとする様子はあるが、未だ学習態度・生活態度の改善が見られない。 D・進路希望を明確にせず、目的意識を持たない生徒が多くいる。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	進路に応じた個別学習指導を充実させる。		近年、上級学校への進学は、易化状況になっている。そのため、大学の講義についていけない基礎学力不足の学生が多く誕生している。また、就職試験では一般常識テストの成績が悪く、不採用となるケースも見られる。	【努力・成果指標】(内部・生徒・保護者) 作文(小論文)面接の指導が計画的に行われるとともに、進学希望者に対する模擬試験と個別指導が適切に行われ、意欲及び成績が向上する。	A・意欲及び成績が大変向上した。 B・意欲及び成績がかなり向上した。 C・意欲及び成績が少し向上した。 D・意欲及び成績の向上がほとんど見られなかった。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 演劇教育を通して、自己表現やコミュニケーション能力を高め、人間形成を図る。	演劇の授業の更なる工夫と充実を図る。	総務 教務 演劇教育推進	設置6年目となる演劇コースは、これまでの実践で演劇教育の手法を確立させ、他校からも指導を要請されることとなったが、今後につなげるためにも更なる創意工夫で先導的役割を担いたい。	【成果指標】(内部) 授業の工夫と充実を図ることで、生徒の表現に対する意欲が高まる。	A・授業の工夫と充実が図られたことで、生徒の表現に対する意欲が高まった。 B・授業の工夫と充実がある程度改善されたことで、生徒の表現に対する意欲もある程度高まった。 C・授業の工夫と充実があまり改善できなかったことで、生徒の表現に対する意欲もあまり高まらなかった。 D・授業の工夫と充実が改善されなかったことで、生徒の表現に対する意欲も高まらなかった。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	成果発表としての卒業公演を成功させる。	演劇教育推進	卒業公演の準備は、約1年間かけて行われる。そのため、計画を立てて準備を進めて行かねばならない。このようにして進められた公演の成否が生徒の人格形成に大きな影響を与える。	【成果指標】 (内部・生徒・保護者) 演劇教育の集大成としての卒業公演が成功裏に行われる。	A・計画・準備・本番を通じた活動全般が順調に進められたことで、公演そのものが大きな成功を収めた。 B・計画・準備・本番を通じた活動に少しの停滞があったものの、公演はかなりの評価を得た。 C・計画・準備・本番を通じた活動に停滞があったことで、公演そのものも、よい出来とはならなかった。 D・計画・準備・本番を通じた活動にかなりの停滞が生じたことで、公演が不調に終わった。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	卒業公演終了後に評価を実施。
	ボランティア活動としての外部公演を充実させる。		生徒の外部公演により、生徒のコミュニケーション能力が育っている。さらに、奉仕の精神も育っている。 演劇教育の最終目的は、人格の形成にあるのでこの活動をさらに発展させていきたい。	【成果度指標】 (内部・生徒・保護者) 外部公演が活発に行われ、奉仕の精神も向上している。	A・生徒たちは、外部公演に積極的にでかけ、表現力を高めるとともに奉仕の精神を大きく向上させた。 B・生徒たちは、外部公演にでかけることで、表現力をある程度高めるとともに奉仕の精神も身につけた。 C・生徒たちは、外部公演にあまりでかけたがらないため、表現力向上に対する意欲も高まらず、奉仕の精神もあまり身につけていない。 D・生徒たちは、外部公演にでかけたがらず、表現力向上に対する意欲も乏しく、奉仕の精神も身につけていない。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	演劇教育の広報活動の工夫と充実を図る。	教育統計広報 演劇教育推進	人格の形成における、演劇教育の果たす役割の大きさについては、5年間の実践で実証された。その成果を広く発信し、入学者の増加につなげたい。	【成果指標】(内部) 演劇教育の広報活動が奏功して、多くの県民が演劇教育を支持し、入学者が増える。	A・広報活動が入学者数を増やすことに貢献した。 B・広報活動が入学者数を増やすことにある程度役立った。 C・広報活動が入学者数を増やすことにあまり役立たなかった。 D・広報活動が入学者数を増やすことに役立たなかった。	A・Bの評価が70%に満たず、C以下の評価の計が30%以上の場合は、取り組みを見直す。	